

中部北太平洋で漁獲されたサクラマス

うらわ しげひこ
浦和 茂彦 (調査課遺伝資源研究室長)

サクラマスは北太平洋のアジア側のみに分布し、これらの海洋分布は通常オホーツク海、日本海と北日本の太平洋沿岸に限られている (Kato 1991)。沖合での記録としては、西部北太平洋 (北緯45-50度, 東経157-162度) で6月初旬から中旬にかけて採集された3例があるだけである (図1, 待鳥ら 1978)。

1998年6月27日に中部北太平洋 (北緯46度, 180度) でさけ・ます資源調査中の若竹丸の刺網 (目合72 mm) に見慣れない魚が漁獲された (図1)。この魚を冷凍してさけ・ます資源管理センターに持ち帰り、形態と遺伝的特徴を調べたところ、サクラマスの雄であることがわかった (Ohkuma et al. 1999)。この魚は尾叉長540 mmで体重2,460 g、体表面は銀白色の鱗に覆われているが、精巢の重量は78 gで吻部が僅かに湾曲していることから、ある程度成熟が進んでいることをうかがわせた (図2)。鱗相を調べたところ、淡水と海洋でそれぞれ1回ずつ冬を過ごした1.1 (淡水年齢・海洋年齢) 年魚であった。

サクラマスは海洋で1回越冬してから成熟を開始し、晩春から初夏にかけて産卵のため母川に回帰することが知られている。今回中部北太平洋で漁獲されたサクラマスは成熟中の雄であり、すぐにも母川へ帰る必要があっただろう。採集場所から最も近いサクラマスの産卵場所はボルシャヤ川などがあるカムチャツカ半島南西沿岸で、ボルシャヤ川でのサクラマスの遡上時期は6月中旬から7月中旬でピークは7月初旬である。待鳥ら (1978) により報告された3例は比較的カムチャツカ半島に近い海域で漁獲されているが、今回のサクラマスの漁獲場所は産卵河川から約2,000 kmも離れている。漁獲場所と時期を考慮すると、このサクラマスは母川回帰中に遠く東側水域に迷いこんだと思われる。

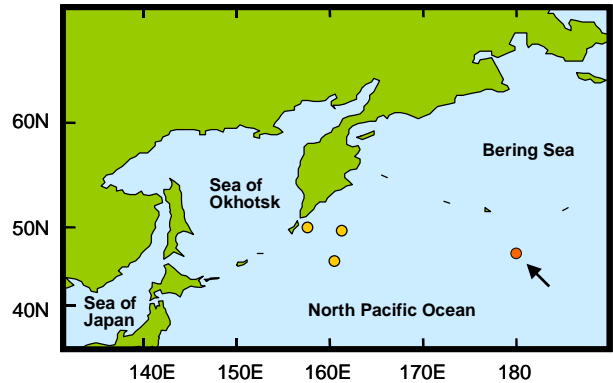


図1. 北太平洋沖合で記録されたサクラマス (黄色丸印, 待鳥ら 1978) と今回採集された標本 (矢印) の採集場所。これまでに記録された3例は比較的カムチャツカ半島に近い海域で採集されているが、今回のサクラマスはそれよりも遙か東側沖合で見つかった。



図2. 中部北太平洋 (北緯46度, 180度) で採集されたサクラマス。尾叉長540 mmの雄で、吻端がやや湾曲した2次成徴を示すことから、成熟が進んでいると判断される。

引用文献

- Kato, F. 1991. Life histories of masu and amago salmon (*Oncorhynchus masou* and *Oncorhynchus rhodurus*). In Pacific salmon life histories (edited by C. Groot and L. Margolis). UBC Press, Vancouver. pp. 447-520.
- 待鳥清治・岡崎登志夫・伊藤外夫・小笠原淳六. 1978. 北西太平洋の沖合水域で確認されたサ

クラマス (*Oncorhynchus masou*). 遠洋水研報 16: 1-7.

- Ohkuma, K., S. Urawa, Y. Ueno, and N. D. Davis. 1999. Easternmost record for ocean distribution of masu salmon (*Oncorhynchus masou*). (NPAFC Doc. 422) 6 p. National Salmon Resources Center, Fisheries Agency of Japan, Toyohira-ku, Sapporo 062-0922, Japan.